

令和6年度 第3回佐賀市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

- ◆ 日時
令和6年11月26日（火）10:00～11:30
- ◆ 会場
ホテルグランデはがくれ フラワーホールC
- ◆ 出席委員（敬称略、委員名簿順） ※◎は会長
江口裕太、松本毅、川尻眞司、◎平部康子、橋本建夫、久保知里、有田哲二、古賀史生
松尾真理子、牛島清豪
- ◆ 欠席委員（敬称略、委員名簿順）
江頭省吾、納富靖裕、北原奈津紀、西崎淳一、石田美恵子、吉村純子、横尾敏史
- ◆ 事務局
武富政策推進部長、志波政策推進部副部長、白濱企画政策課長、富永企画政策課副課長 外
- ◆ 傍聴者
0名
- ◆ 議事要旨
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1)次期佐賀市総合戦略の策定について
 - （事務局）資料1、資料2により説明
 - 会長
 - ・KPIをどういう横軸、共通概念として設定しているのか。客観指標と主観指標のばらつきが気になる。
 - ・KPIの設定で、アウトプット指標になっているものと、反対にアウトプットではない重点事業の量や数をKPIの中に入れていたものもあり、どちらが共通の考え方が分からない。
 - 事務局
 - ・KPIは、全体的に数を絞りたい。一つの政策で1～2。それぞれ区分分けした中で2～3。活動指標も除いている。
 - ・市民の幸福度を上げていく計画としており、活動指標ではないものをKPIとして求めたこと、客観指標を取りにくい政策もあることから、ばらつきがある。横串を刺してポイントを把握し、全体のバランスを取る作業が出来ていないため修正したい。
 - 委員
 - ・佐賀らしさの磨き上げと書いてあるが、佐賀らしさが具体的に書かれていない。
 - 事務局
 - ・市域が広範囲の中で定義付けは難しく、あえて表現していない。その中で地域の特性

を佐賀らしさとしてとらえる。例えば、12ページの地域幸福度は、客観的指標は低く主観は高い場合にそれを佐賀らしさにとらえ、拡充に取り組む。逆に主観が低い分野に関しては改善を目指す。そういう考えで佐賀らしさを磨き上げていくと整理した。

○委員

- ・一般的に佐賀らしさは歴史と絡む。歴史があり佐賀らしさが出てくる。歴史を肯定し、駄目であれば解説、それが将来に向かっての佐賀の歩み。歴史のどの部分を生かしてどの部分を変えていくのか分かりにくい。

○事務局

- ・総合計画の策定で、佐賀らしさが一つのキーワードになり将来像になっている。策定にあたり市民アンケートを行い、佐賀市の魅力や自慢出来ること、将来こういうまちになってほしいという設問を設けた。自然の豊かさを佐賀らしさとして挙げられた意見が多く、それ以外に歴史や食べ物、バルーン、のんびりしている、空が広い、様々なご意見を頂いた。
- ・こういうまちになってほしいという設問に関しては、子どもなど人中心の将来といった様々なご意見を頂いた。
- ・市民アンケートや審議会のご意見を踏まえ、将来像として「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」としている。佐賀らしさは様々あり、そういう中でどういうものを磨き上げしていくか色々な分野で進めていくべきと考えている。

○委員

- ・それぞれの人が持つ佐賀らしさ、良さを磨き上げるのであれば、そういう文言が必要。市の行動を決めていく中で、具体的なイメージがわからない。極端に言えば、そのまま歴史を生かして特に変える必要はないとなりかねない。佐賀の良さをどうとらえ、こういう良さに変えていくなど、文言の中にないと分かりにくい。

○事務局

- ・少し工夫をさせていただきたい。(佐賀らしさについては、総合計画に記載あり。)

○委員

- ・KPIについて、主観的と言われたが、生き生きや住みやすいなど、定性的な表現が目立つ。これを量でどう図るか検討するとより分かりやすくなる。量に置き換えるという作業が結構難しい。場合によって専門家の意見を取り入れながら、どう定量化していくか検討されると良い。
- ・総合計画の体系の中にAI等の最新技術とデータを活用したまちづくりがあるが、それぞれの項目にデジタルの文言が少ない。佐賀市はスマートシティ宣言のもとでスーパーアプリやデータ連携基盤、データマネジメントシステムが導入され、いよいよ動き出すという段階にあり、全国の自治体からも注目を集めている。それがどう各項目に政策として落とし込まれるかも必要になる。

○事務局

- ・定量化は苦慮しており、もう少し分析等して調整していきたい。
- ・AI等について、別途佐賀市スマートシティプランを策定している。それは事業側から、こういう分野で実施するという形で作成している。DXがなかなか見えづらいというところはお指摘のとおり。その策定とあわせて政策にどう落とし込むか協議を進めたい。

○委員

- ・KPIのところで、4年間でやっていく数値目標は示されているか。

○事務局

- ・現状はK P I の項目立てまで。現状の数値と目標も最終的にはお示ししたい。
- 委員
 - ・2040年の将来像に向けてバックキャストिंगの考え方でということだったが、いつまでにどうしてというものは、別のところで示されているか。
- 事務局
 - ・目指す姿を決め、それに対して今何をすべきという考え方を変えたということ。段階的に何をしていくかは、個別計画で具体的に目標を持って取り組んでいくところで、何年までに何をというところまではお示ししていない。
- 委員
 - ・共創プランの目指す姿というのは、2040年の目指す姿か、それとも2028年か。
- 事務局
 - ・16年後、2040年を目指している。
- 会長
 - ・K P I の設定の仕方が、バックキャストिंगから考えた時に、市民の主観が駄目だという意味ではないが、今出来ているかどうかチェック出来る指標になっていない。長期的に目標を持って、いつまでに例えば23%にするから今は18%などと設定するもの。数値化が難しいと言われたが、目標に対して今はここまでなどが分かるものを入れる必要がある。
- 事務局
 - ・バックキャストिंगの要素の中でどれだけクリアしていくか、目標値等を決める段階で意識して変更していきたい。
- 会長
 - ・重点的な課題とK P I がずれているものがある。
- 事務局
 - ・重点的な課題に記載しているものについて、数値目標が設定出来るかどうか含めて協議したい。
- 委員
 - ・Well-Being指標について有効性がどうかなどの指摘がありWell-Being指標を信じていいのかという議論がある。指標に対する認識は。
- 事務局
 - ・この指標で使われている客観指標がこの指標でいいのかなど、考えるところはある。今回市民一人ひとりの幸福度・幸せを上げていくこと、人口が減る中でも満足度を上げていく所を主眼においており、その中でこの地域幸福度指標Well-Being指標を取り入れて、強み弱みを把握しながら各政策分野の中で取り込んでいきたい。あくまでも参考で活用出来る所は活用している。
- 会長
 - ・指標そのものの問題だけでなく、調査の仕方。社会調査は一定数とか、きちんとしたバックデータがないと、信頼性に値しないと言われてしまう。
- 事務局
 - ・佐賀市で独自にアンケートをとり、一定数の母数を統計的に担保出来るようにしている。それを事務局に投げて反映し、主観的なデータについて一定程度の母数を取っている。今後、定期的に取り上げていくかどうか検討したいが、基礎的なデータはあるため、今後定期的にとったほうが良いと考えている。
- 委員

- ・市民目線で、佐賀らしさはいわゆる郷土愛的な意味合いが強く、佐賀愛に代えても良い気はした。
- ・スポーツをもっとエンタメ化したいという話もある。お酒を飲みながらスポーツを見るとき、飲食しながらスポーツを楽しむ様なことをSAGAアリーナも目標にされている。スポーツにエンタメを入れて頂くのが、今の佐賀らしいところというイメージとつながる。
- ・佐賀らしい新しい観光の提供というところが抽象的で、バルーンとか、地酒だったり、各地においしい食材があったり、その辺りに具体性を持たせてもらっても良い。

○委員

- ・KPIの設定は非常に難しいと思っている。私たちのところでは、漁業者が減る中でどうやって水産物を上げて業者も確保してというところで悩んで考えている。我々は所得10%向上でしており参考までに共有したい。
- ・物資も高くなって、例えば海苔であれば、水揚げが上がっても実際所得は上がらないところもあるので、数字だけでなくもう一步踏み込んだ目標を上げてはどうか。

○委員

- ・教育に関して、当然小中学校までで、高等学校、大学ということで中等教育から高等教育への展望が書かれていない。コミュニティもやはり若い世代、大学生たちがおることによって活性化する。これから高等教育等に対してどう取り組んでいくのか見えたなら良い。

○委員

- ・市がやろうと思ったらこんなに多岐にわたるので、同じ土俵でするのは難しいだろうというのは意見を聞きながら思った。ただ、見る方は同じレベルで話をしてもらえると分かりやすいというのはある。
- ・共創プランの考え方の②③というのは全国的に取り組むことで、これがメインになるのは分かる。それを持続していくとか色々考えた上で、①の佐賀の特性を踏まえた上での②③と文脈として読み取れる。同じレベルで話をすることが難しい内容であり、見方によってそういうことが出来ると思った。
- ・大学のことが教育に集約されていて、書いて頂いてはいるが、大学は県の動きで市が書きにくいのかなと感じた。

○委員

- ・縮小する社会の中でどう市役所として経営していくか。重要なのが1番キャッチーな言葉として書かれているオープンなせいだと思う。オープンであることと、共創という言葉は一對のものだと思う。我々市民側も、地元企業としても、その辺りはきちんと腹落ちして、行政とともに歩んでいく姿勢も信頼も大切だと思う。このプランに基づいて活動が出来ると良いと思った。

○委員

- ・佐賀市未来共創プランというこのタイトルはすごく魅力的で良い。込められた思いも伺ってすてきだと思う。内容も未来を感じられる内容になっており、全体的には魅力を感じられる。取り組む事業のところに関しては漠然として、具体的なイメージがわからないところが多い。ただ、この先にはそれぞれの計画があり、そこでもっと具体的な計画が定められていると思うので、そちらに誘導する流れを取られても良い。

○委員

- ・KPIをもう少しきちんと検討されたら良い。ずいぶんずれているというか、ピンとこないものが含まれている。

- ・佐賀らしさの問題は、共創プランを考える会議と総合計画をつくられた会議が別ということで、組織が二つ立ち上がることはありうると思うが、橋渡し出来る会議があれば良かった。総合計画に対して、佐賀らしさをもう1回考えませんかということも出来た気がする。

○委員

- ・前任が八王子で、八王子は学校が非常に多く色々な大学・高校が集積している。地域に若者が集まるが、卒業すると皆出て行き就労が定着しないのが課題。学校が多くて、まちの活性化までつながっていないところを非常に悩まれていた。佐賀も県立大学の計画段階ということで、佐賀で働く仕組みをセットで考えていくのが重要。

○事務局

- ・佐賀市未来共創プランについては、今後4年間にわたって佐賀市をどうしていくか。特に人口減少や構成の変化、1か月ぐらい前に子どもたちの数が年間70万人位になるという報道もあり、今の中高生が大体年間100万人強位で、10年後中学校では3割ぐらい生徒が減ってしまう。これを単に減るからどうしようではなく、減ったことによりどう変えていくかが行政に求められる。単に減るから施設を減らすではなく、どういった教育が出来るか考えていくなど、変革に合わせてどう発展させていくかが、行政に求められる。
- ・国の考えも今までの経済発展だけでなく、誰一人取り残さない、ジェンダーギャップしかり、高齢者しかり、一緒になってまちをつくっていく必要があるとあり、市としてもそういうところを目指していきたい。
- ・KPIのご意見多かったと思うが、内部で議論する中で良いKPIがないといった話をしている。お話あったように重点事業とKPIの関係性をもっと見なくてはということには気づかされ、そういった面も含めて、2月にご提案したい。